

普及活動現地情報

「農業現場では、今」



【海草振興局】にんじん優良品種試験及び土壌病害調査の実施

令和5年6月号

和歌山県農林水産部経営支援課

(農業革新支援センター)

はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



< 目 次 >

	頁数
I 海草振興局	1-2
1. にんじん優良品種試験及び土壌病害調査の実施	
2. 新しょうが「甘酢漬け」レシピの動画を SNS へ	
3. 和海地方生活研究グループ連絡協議会総会を開催	
4. 農業体験学習会で田植え体験実施	
II 那賀振興局	3
1. 調月小学校で「うめの出前授業」を実施	
2. 岩出市特産「ねごろ大唐」の出前授業を開催	
III 伊都振興局	4-5
1. 重点プロジェクト【新品種導入と担い手の育成によるかき産地の活性化】 ～農業技術講習会果樹コース（摘果・品質対策）の開催～	
2. クビアカツヤカミキリ特別警戒調査の実施	
3. 食育活動として小学校へのうめの出前授業を実施	
IV 有田振興局	6
1. 田んぼの学校（糸我小学校）で田植え・アイガモ放鳥授業開催	
2. 御霊小学校でみかん摘果の体験学習を開催	
V 日高振興局	7
1. えんどう短節間系統品種「光丸うすい」採種試験ほの調査を実施	
2. 美浜町でスクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）一斉駆除を実施	
VI 西牟婁振興局	8
1. 重点プロジェクト【持続的なうめ産地の発展】 ～うめ摘心実証園の収量調査結果～	
2. 西牟婁地方クビアカツヤカミキリ連絡会議を開催	
VII 東牟婁振興局	9
1. 重点プロジェクト【半世紀を迎えた“くろしお苺”産地の体力強化】 ～炭そ病対策研修及び簡易検定を実施～	
2. くろしおナス組合が現地検討会を実施	
VIII 農林大学校	10
1. MPS 及び GAP 演習を実施中	
2. 2 年生のインターンシップ研修	

I 海草振興局

1. にんじん優良品種試験及び土壌病害調査の実施

和歌山市布引や毛見の砂地地帯はにんじんの産地であり、6月上旬から7月中旬にかけて収穫され、京阪神市場へ出荷される。農業水産振興課では、JAわかやまと連携して新たな優良品種の導入に向けて、品種試験を行っている。今年は3品種を試験し、6月12日、6月20日に収穫し、形状や品質を調査した。有望と思われる品種については、今後、現地試験の面積を増やし、産地に導入するかどうか生産者や産地の関係者と検討する。

また、この地域では、数年前からにんじんに土壌病害と思われる症状が一部で発生している。5月上旬から軸枯れなどの症状が見られ、収穫時には欠株やにんじん表面に病斑が出るなど、収量や秀品率の低下を引き起こす。これらの土壌病害を引き起こしている菌の種類を特定するため、JAわかやまと県農業試験場と連携して、5月8日と6月6日に18園地において調査を行った。一部の園地で軸枯れの症状があったため、それらの株を農業試験場に持ち帰り、菌の分離・特定を行っているところである。



品種調査の様子



土壌病害調査の様子

2. 新しょうが「甘酢漬け」レシピの動画を SNS へ

農業水産振興課では、情報発信のツールの一つとしてインスタグラムを活用し、管内の農林水産業の出来事や研修会の案内などを発信している。今回、和歌山市の新しょうがをPRするため、「甘酢漬け」のレシピ動画を作成し発信した。今後も様々な情報を配信していきたい。



新しょうが



新しょうがの甘酢漬け



@KAISOU_NOURINSUISAN

海草振興局農林水産振興部の
インスタグラム QR コード

3. 和海地方生活研究グループ連絡協議会総会を開催

和海地方生活研究グループ連絡協議会総会が6月7日に海南市農村婦人の家で開催され、会員13名が出席した。田端会長から開会の挨拶があり、その後農業水産振興課の宮向課長から祝辞があった。議案である令和4年度の事業報告、会計報告、令和5年度の事業計画、収支予算は全て承認された。今年度は新型コロナウイルス感染予防対策をしながら、従来に近い形で研修会等の活動に取り組んでいくこととなった。

総会後の研修会では、県食品・生活衛生課の大家秀仁課長補佐兼班長、中井由依奈技師から「健康食品について」と題して講演があった。会員から「健康食品とサプリメントとの違いは何か」などの質問があり、新たな情報を得る良い機会となった。

今後も、おいしさと健康を発信するため生研グループの食育や地産地消に関する活動の支援を行っていく。



「健康食品について」の研修会

4. 農業体験学習会で田植え体験実施

農業水産振興課では、農業体験を通じて農産物の生産現場について関心や理解を深め、食べ物を大切にする心を育てることを目的に、小学生を対象とした体験学習を実施している。6月13日に和歌山市の貴志正幸氏の水田において、和歌山大学教育学部附属小学校の5年生68名を対象に田植え体験を実施した。

初めに貴志氏から苗の持ち方や植え方、水田での歩き方などについて説明を受けた後、実際に田植えを体験した。児童の多くは初めての田植えに苦戦していたが、貴志氏の指導を受けながら作業を進めるうちに徐々に慣れ、田植えを楽しんでいた。

体験後、児童から貴志氏に肥料の種類や食料自給率などについて質問があり、農業について積極的に学んでいた。10月には稲刈り体験を予定している。今後もモノを作る喜びを感じてもらえるよう支援する。



田植え体験

Ⅱ 那賀振興局

1. 調月小学校で「うめの出前授業」を実施

6月9日、農業水産振興課では紀の川市立調月小学校の4年生9名を対象に、うめの出前授業を行った。この授業は、児童達が県産果実の知識を深め、農業への理解促進と郷土愛、食に対する感謝の気持ちを醸成することを目的としている。

はじめに、果樹園芸課長から児童代表に梅の贈呈が行われた後、南方普及指導員が県内における梅の生産状況や品種、また最近産地で問題となっているクビアカツヤカミキリについて説明を行った。続いて、JA紀の里梅部会長の杉井正幸氏から、梅農家が行っている生産から出荷までの作業について説明があった。

講義の後、児童達は梅ジュースづくりに挑戦した。竹串を使って慎重に梅のヘタを取った後、表面に穴を開け、砂糖と交互にビンに入れて完成させた。児童達からは「ヘタ取りが難しかったけど、面白かった」、「毎日ビンを振って、ジュースを早く飲みたい」といった声が聞かれた。



うめの栽培について説明する杉井講師

2. 岩出市特産「ねごろ大唐」の出前授業を開催

6月15日、農業水産振興課では給食センターの栄養教諭と連携し、岩出市立上岩出小学校の5年生63人を対象に岩出市特産「ねごろ大唐」についての出前授業を開催した。

講師であるJA紀の里ねごろ大唐部会長の中村和史氏からは、「ねごろ大唐は高温下で栽培すると辛みが出るため、温度管理や遮光に気を付けている」「『根来寺の大塔』と『値ごろな大唐』の二つの意味をかけて名づけられた」といった話があり、児童達は興味深く聞き入っていた。

生のねごろ大唐の試食では「ピーマンみたいに苦くなくて甘い」との感想が聞かれ、続いて中村講師が作った『ねごろ大唐じゃこ昆布炒め』も、「すごく美味しい」「簡単だし家でも作ってみたい」と大好評だった。

今年度、岩出市内の小中学校では、ねごろ大唐を使った給食が3回提供される予定で、この日も、ねごろ大唐を使った『チキン南蛮』が提供された。

今回の出前授業や日々の給食を通じ、児童達が地域農業への理解を深めるとともに、食べ物を育てている人の努力や苦勞を知ることで、食べ物を大切にしようとする感謝の気持ちが醸成されることを期待している。



ねごろ大唐の栽培について説明する中村講師

Ⅲ 伊都振興局

1. 重点プロジェクト【新品種導入と担い手の育成によるかき産地の活性化】 ～農業技術講習会果樹コース（摘果・品質対策）の開催～

6月29日に、かき栽培における摘果等の品質管理に関する技術講習会を開催し、就農希望されている方や就農間もない果樹農家16名が受講した。

はじめに、農業水産振興課の森口普及指導員が、摘果やかん水等の夏場の管理技術について講義し、その後、間佐古普及指導員が、落葉病・炭疽病・カメムシ等の主要病害虫の防除方法と、農薬の取扱について講義した。

講義終了後は、九度山町内のほ場において、間佐古、森口両普及指導員が、かきの摘果方法について現地研修を行った。受講生からは、摘果すべき果実の判断基準や病害虫防除に関する質問があった。

今後も、かきの栽培技術を学びたい受講生に対して技術指導を行っていく。



講義の様子



現地研修の様子

2. クビアカツヤカミキリ特別警戒調査の実施

伊都振興局管内では、令和元年にクビアカツヤカミキリを確認して以来、すもも・もも・うめ等のバラ科の落葉果樹やさくらなどで、被害樹が増加・拡大している。

令和5年5月末までの樹園地における被害樹の累積確認数は、橋本市で143地点344本、かつらぎ町で211地点1,185本、九度山町で、2地点2本となっている。

被害の現状把握を目的に、6月14日から6月28日までの間の6日間、振興局と橋本市、かつらぎ町、九度山町、JA紀北かわかみ、農業共済組合及びかき・もも研究所による特別警戒調査を実施した。

延べ約80人が、橋本市で242地点、かつらぎ町で369地点、九度山町で44地点の計655地点を調査し、173地点で新たな被害樹を確認した。また、成虫については、5月27日にすでに確認されており、その後も確認が続いていることから、農家に対して、関係機関と協力して、防除の啓発及び指導を行っている。



調査中の様子

3. 食育活動として小学校へのうめの出前授業を実施

6月20日、高野町立花坂小学校の2～6年生の児童8名を対象に、うめの出前授業を行った。

この授業は、児童達が県産果実の知識や農業への理解を深め、郷土愛や食に対する感謝の気持ちを醸成することを目的として行っている。

はじめに、農業水産振興課の山崎技師が、和歌山県のうめの生産量や品種、栽培方法とうめジュースの作り方について説明した。

その後、児童らによるうめジュースづくりでは、児童各自がうめを水で洗い、竹串によるヘタの除去と、出来上がりを早くするためにフォークで果実に傷を付け、砂糖と一緒に瓶詰めを行った。作業終了後児童からは、「うめジュースが出来上がるのが楽しみ」という声が上がっていた。

今後も、伊都地方の地元特産物の活用や地産地消をテーマとした食育活動に取り組む。



うめの栽培・収穫について説明



うめジュースづくりの様子

IV 有田振興局

1. 田んぼの学校（糸我小学校）で田植え・アイガモ放鳥授業開催

有田市立糸我小学校では、糸我地区青少年育成会主催のもと、アイガモ農法による米づくりに取り組んでおり、6月15日に5年生による苗取り作業、6月16日に全校生徒による田植えが行われた。「田んぼの学校」校長である元指導農業士山崎佳彦氏の指導のもと児童は一列に並び、慣れない田んぼに足をすくわれながらも地元農家の掛け声に合わせて一斉に植えていった。

児童からは「1株ずつ後ろにずれながら植えていくのは転びそうになり大変だった。」「列が曲がらないようにまっすぐ植えていくのが大変だった」などの感想が聞かれた。また、6月21日には児童が孵化させたアイガモのヒナ計13羽を「いっぱい雑草や虫を食べて大きくなってね」と言いながら田んぼに放鳥した。



田植えの指導



アイガモを放鳥する児童

2. 御霊小学校でみかん摘果の体験学習を開催

有田川町立御霊小学校では、地元産業への理解を深めるため、総合学習の授業で年間を通した温州みかんの栽培体験を実施しており、6月29日に3年生61名を対象に摘果の体験学習が行われた。古田普及指導員から日本農業遺産と年間の栽培管理について教室で説明を受けた後、地域農業士である玉置泰伸氏指導のもと園地で摘果した。体験した児童からは、「黄色い実と緑の実があるのはどうして?」「傷が付く原因はなに?」との質問が出た。なお、10月には収穫体験の授業を予定している。



普及指導員によるみかん栽培の授業



玉置氏による摘果の説明

V 日高振興局

1. えんどう短節間系統品種「光丸うすい」採種試験ほの調査を実施

5月6日、日高野菜花き技術者協議会（会長：濱田光弘氏）は、橋本市学文路地域で行っているえんどう短節間系統品種「光丸うすい」採種試験ほの収穫調査を、会員5名で行った。

「光丸うすい」は、「きしゅううすい」より節間が短い系統のえんどうで、令和4年に品種登録されている。

今回の試験は「光丸うすい」種子生産に向けて、県内のえんどう類の種子生産地である橋本市学文路地域における「光丸うすい」の現地適応性や採種した種子品質把握を目的としており、20 kg コンテナに約6杯の莢を収穫した。

出席者からは「雨の影響で、莢の品質が若干悪い感じがする。」等の意見が聞かれた。今後、莢の乾燥を行い、子実を種子として調整し、収穫量や種子品質の把握を行う。



採種試験ほ場（橋本市学文路地域）



「光丸うすい」莢の収穫

2. 美浜町でスクミリングガイ（ジャンボタニシ）一斉駆除を実施

6月25日、美浜町でスクミリングガイ（ジャンボタニシ）の一斉駆除活動を行った。

美浜町は水稻の生産が盛んな地域であるが、スクミリングガイの食害が問題となっている。

そのため美浜町の呼びかけで、地域の農業者が中心となり、関係機関の協力のもと、毎年6月下旬に駆除を実施している。

当日は、農業者が、自身の水田に発生したスクミリングガイを集め、その後、町職員が回収し焼却処分を行った。今年の捕獲量は50 kg と、去年より20 kg 多くなった。

駆除活動中は、町職員と振興局職員で水田を巡回し、農業者への聞き取りと、目視

による発生状況の確認を行った。農業者からは「今後も続けていきたい」、「新しい防除方法が見つかって欲しい」等の意見が聞かれた。



美浜町職員による駆除活動の受付



捕獲タモで捕まえたスクミリングガイ

VI 西牟婁振興局

1. 重点プロジェクト【持続的なうめ産地の発展】

～うめ摘心実証園の収量調査結果～

うめ「南高」の着果安定対策として取り込んでいる摘心栽培実証園（田辺市下三栖）の収量調査を6月5日、8日に行った。長年摘心処理を施した樹は、結果枝の増加に伴い着果過多となり、小玉化が懸念されている。そこで、摘心処理時に群状着果した下垂枝を2/3程度切り落とす処理に加え垂主枝の先端が下垂しないよう支柱を設置した樹（以下追加処理樹）と、摘心処理のみ樹とを比較して調査を行うこととした。

一樹当たり収量は、追加処理樹が、摘心処理のみ樹より約15%減となった。果実階級は、摘心処理のみ樹が、L級中心であった一方、追加処理樹では2L～3L級中心と大玉果実の割合が増加したことから、果実売上試算額では同程度だった。また、収穫時間は摘心処理のみ樹に比べて追加処理樹では2/3程度だった。以上の結果より、摘心処理時の追加処理により果実肥大が促進し、より少ない収穫時間で同等の売上額を得られることが分かった。今後は、青梅収穫において2L級以上の大玉果実の割合を高める枝梢管理技術の確立を目指す。



追加処理樹の収穫調査

2. 西牟婁地方クビアカツヤカミキリ連絡会議を開催

振興局関係各課、市町、JA、県研究機関で構成する、西牟婁地方クビアカツヤカミキリ連絡会議を6月5日に開催した。

県内のクビアカツヤカミキリの被害状況や西牟婁地域内で年間2回実施している定点調査の結果について、報告を行った。うめ、すもも、さくらでのべ2039本を調査し、被害は今のところ確認されていない。また林業試験場からはクビアカツヤカミキリの産卵選好性について情報共有があった。今年5月に御坊市で被害が初めて確認されたことを受け、管内で発生した場合、迅速に被害拡大防止策を講じることができるよう、悉皆調査の方法や被害樹の処理方法、各所属における担当窓口など詳細な体制について再確認を行った。

今後も継続して調査を行い、チラシの配布等により周知や啓発を徹底し、早期発見への警戒を強める。



クビアカツヤカミキリに対する危機感の共有

Ⅶ 東牟婁振興局

1. 重点プロジェクト【半世紀を迎えた“くろしお苺”産地の体力強化】 ～炭そ病対策研修及び簡易検定を実施～

5月24日、JAみくまの共催でみくまの産地協議会のトレーニングファームの研修生（準備資金受給者）といちごの新規就農者（同ファーム修了者）の2名を対象に、新規就農者の育成といちごの安定生産を目的に炭そ病対策研修（第1回イチゴセミナー）をJAみくまの営農経済センターで実施した。

研修では、坂井普及指導員から炭そ病の被害程度や防除方法、検定の必要性和簡易検定方法の説明を行った。研修生はJAみくまの笹平主事と岩橋普及指導員の指導のもと、採取した葉で簡易検定を実習した。さらに、前処理として、研修者採取の5検体と管内いちご農家10戸から採取の31検体について、葉の洗浄・殺菌乾燥後の前処理を行った後、シャーレに入れ、恒温器（28℃）に保管した。

6月7日、前回参加者とともに、葉に発生した孢子塊から炭そ病感染の有・無を判定し、採取した農家に検定結果とその対処方法を伝えた。



炭そ病簡易検定の前処理実習（5月24日）



炭そ病簡易の判定（6月7日）

2. くろしおナス組合が現地検討会を実施

6月8日、くろしおナス組合（会長：松本安弘氏）は、那智勝浦町の会員の各園地を巡回してなすの生育・着果状況等を調査した。生産者と市場関係者及びJAみくまの、農業水産振興課併せて9名が参加した。

生育状況は、アブラムシ類やカスミカメムシ類による加害があり、さらに、6月2日の台風2号接近による枝折れの発生があったものの、今は回復傾向であった。

検討会では栽培管理や生育状況を組合員が報告し、病気の防除方法や誘引方法、台木の特徴等が話し合われた。栽培管理を徹底するとともに、生産量を維持拡大するため、新規なす生産者の確保に取り組んで行く。



那智勝浦町南大居のなす園地での検討会

Ⅷ 農林大学校

1. MPS 及び GAP 演習を実施中

4月26日から2年生を対象に始まったGAP演習は6月27日で2回目を実施。

農林大学校では、平成30年からかきの輸出やかき及びトマトのグローバルGAP認証取得など、農業のグローバル化に対応するためのカリキュラムに取り組んできた。

あらゆる分野でSDGsの取組が進む中、農業では「つくる責任」があり、非食用である花きにおいても環境に配慮した対応が求められている。令和5年度も、2年生が中心となってかき及びトマトのグローバルGAPおよび花きのMPS-ABC継続認証取得を目指して取り組んでいく。

演習第1回目は、2年生14名が職員からGAPの概要を中心とした講義を受講。2回目はほ場・集荷施設・資材庫での現場確認を行い、その上で問題点を洗い出した。

「食の安全」、「労働安全」、「環境保全」等のリスク管理について体系的かつ実践的に学習しながら、グローバルGAPとMPS-ABCの継続認証取得を目指す。



講義風景



現地確認

2. 2年生のインターンシップ研修

6月9日～23日、2年生14名がインターンシップ研修を受けた。研修先は、それぞれの卒業後の進路に応じて農家や農業法人、JA、花屋などを選んでいる。昨年の11月、1年生の時にもインターンシップ研修を行ったが、今回の研修では、半数が前回と異なる研修先に行くこととなった。大半の学生が農業に関わる仕事に興味を持っており、今後の彼らの活躍に期待が高まる。

この場を借りて、学生たちを受け入れてくださった農家・法人の皆様から心から感謝申し上げたい。この研修は学生たちにとって良い刺激となり、大いに成長する機会となった。



フラワーショップで花の手入れ



いちごの採苗作業



かき園でお世話になった方々と



ぶどうの摘粒作業

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4919
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489